（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

２０２５　年度（令和　７　年度）学校評価自己評価表

城北中学校区	校番　８	福山市立樹徳小学校
	最終更新日	２０２５年（令和７年）２月５日

Ⅰ　福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区で連携を深め，共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けて PDCA サイクルに則り実践する。

児童生徒の現状

全国学力・学習状況調査の結果，校区小学校は福山市の平均正答率を上回ったが，中学校は下回る結果となった。

長欠未然防止に向けて，現状や対策を話し合い，実践した。

メディアウィークを設定することで，メディアとの付き合い方や利用の仕方について効果があった。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	知識・技能　思考力・判断力・表現力　主体的に学ぶ力 他者とかかわる力　社会貢献力　自己形成力
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自ら考え，判断し，行動できる自律した児童・生徒
中学校区として統一した取組等	・校区合同研修における，合意形成を意識した授業研究及び教科等部会の取組 ・DC 教育を基に，ＩＣＴを活用した個別最適化した授業実践及び協議・交流の取組 ・家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組 ・合同行事や乗り入れ授業，「総合的な学習の時間」交流会の取組

Ⅲ　自　校

ミッション

目標を持ち，実現に向けて粘り強くチャレンジしようとする子どもを育てる。

学校教育目標

自ら考え，判断し，行動できる樹徳っ子の育成

現　状

＜児童＞
- 全国学力・学習状況調査では国語・算数ともに全国平均を上回り，基礎的・基本的な学力は定着している。また，主体的・対話的で深い学びに対する意識調査での肯定的評価は全体的に前年度より上昇傾向にあり，全国平均を上回った。
- 「外で遊ぼうデー」「主運動につながる運動メニュー」，体育委員会による体力向上の企画の実施により，運動に親しむことができたが，「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」においては，長座体前屈・ソフトボール投げに課題がある。
- 道徳的な善悪の判断が付く児童は多いが，実践する力が十分ついているとはいえない。

＜授業＞
- 国語科において，課題発見，解決を重点にした授業展開を積み上げている。
- 付ける力を意識したり，他へ生かそうとしたりする振り返りが増えてきている。
- 互いの考えをさらに深める話し合いになっていない。
- 国語科での課題発見，解決の力を他教科へ広げられていない。
- 研修した内容を日々の授業に生かしきれず，児童の肯定的な評価へ繋げることができていない部分がある。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)		思考力・判断力・表現力 （課題発見力）	思考力・判断力・表現力 （表現力）	他者とかかわる力 （互いの考えを受け入れ深める力）	社会貢献力 （実践力）
めざす子ども像	１～３年生	「不思議だな」「何故かな」を見つけることができる。	事柄や時間の順序を整理したり，筋道を立てたりしながら，自分の考えを表現することができる。	自分の考えを伝えたり，相手の考えを聞いたりすることができる。	自分がやるべきことを，あきらめないでやり抜くことができる。
	４～６年生	既習内容や知識をもとに，身の回りから探究したい課題を見つけることができる。	筋道を立てたり，根拠を明確にしたりしながら，臨機応変に自分の考えを表現することができる。	多様な考えを受け入れながら，自分の考えを伝え，折り合いをつけることができる。	自分の役割を自覚し，役に立つ喜びを感じながらやり抜くことができる。

研究	テーマ	楽しみながら主体的に学び，力を育む授業づくり ～保幼小連携，国語科授業研究を基盤とした「本気で考える」単元開発を通して～
	内容等	・保幼小連携による児童の学びや育ちをつなぐ授業づくり，学習環境づくり ・国語科における課題発見，解決の見通しを持った思考場面を位置付ける単元づくり
めざす授業の姿		①児童が自ら課題を見つけ，学習を広げたり，深めたりする授業 ②児童が自ら学び方を選択・判断し，相手・目的意識をもって表現する授業 ③互いの考えを受け入れ，さらに深める話し合いを通して，課題解決に向かう授業

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立樹徳小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日） □指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	最終評価（2月末） □指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	自ら考えようとする意欲を育み，力を付ける。		見直し	・自ら考えようとする意欲を育む授業づくりを行う。	・児童が必然性を持って考えている姿を教職員間で共有する。 ・深く思考する学習場面を単元内に位置付ける。	・「授業で，新しいことを知ったり，考えたりすることが楽しい」85%以上 ・「授業で，友達の考えを聞いたり，話し合ったりすることが楽しい」85%以上	□「授業で、新しいことを知ったり、考えたりすることが楽しい」85.1% □「授業で、友達の考えを聞いたり、話し合ったりすることが楽しい」87.3% ・学年が上がるにつれて、肯定的評価の値が下がっている。 ・深く思考する学習場面を位置付けた単元づくりは十分とは言えない。	3	3	・探究的な学びになるように、単元構成の見直しや導入の工夫を行うとともに、実践を交流する。 ・学んだことがこれからに生きる実感を持てるように、振り返りを充実させる。	□「授業で、新しいことを知ったり、考えたりすることが楽しい」84.6% □「授業で、友達の考えを聞いたり、話し合ったりすることが楽しい」85.4% ◎自ら考えようとする意欲が育ち、学び合おうとする集団になってきている。 ◎単元導入の工夫、探究的な学習展開については十分とは言えない。	3	3	3	・探究的な学びについての理解を共有するための研修を行う。 ・カリキュラムマップを見直し、生活科と総合的な学習の時間を軸に、強化との関連に焦点を当て、探究的な学習となるような単元作りを行う。
		★	見直し	・相手，目的意識を持って表現する力，基礎学力の定着を図る。	・児童が学び方を選択，判断する場面を設定する。 ・自分の考えを表現する学習活動を行う。	・学期末確認テスト（思考・表現力）国語・算数80点以上 ・「自分の考えを伝えようと努力した」75%以上	□学期末確認テスト（思考・表現力） 国語 84.5点 算数 76.2点 □「自分の考えを伝えようと努力した」80.3% ・学力差が大きい。	3	3	・多様な学び方による学習展開を行う。 ・相手意識、目的意識をもった表現活動を位置付ける。	□学期末確認テスト（思考・表現力） 国語 85.5点 算数 77.9点 □「自分の考えを伝えようと努力した」79.9% ◎学んだことを発信する機会を設定した。 ◎教科の基礎学力が二極化している。	3	3	3	・相手に伝えるという意識をもって表現できるよう発信の機会を位置付ける。 ・基礎学力の定着に向けて、楽しく、繰り返し行う学習を積み上げる。
3	自他を認め，相手を思いやる心を育む。	★	継続	・自分の役割を自覚しながら，協働してやり抜く力を育む。	・学級経営，児童理解についての研修を行う。 ・行動目標に対する振返りを継続する。 ・自主的な係，委員会活動を促進する。	・「学級や委員会で自分の役割を果たしている」80%以上 ・「目標や努力することを決めて取り組んでいる」80%以上	□「学級や委員会で自分の役割を果たしている」84．7% □「目標や努力することを決めて取り組んでいる」84．1% ・高学年を中心に役割を意識して活動している。	3	3	・児童が主体的に役割を果たせるようにする。また、振り返りをすることで意味をもたせるようにする。	□「学級や委員会で自分の役割を果たしている」88.5% □「目標や努力することを決めて取り組んでいる」86.1% ◎役割を果たそうとする児童は増えたが、活動が前年度踏襲の内容に留まっている。	3	4	3	・行事や委員会・係活動の目的を児童と再共有する。 ・行動目標を立てた上での振り返りを継続する。

4	自ら体を動かし，たくましい体を育成する。		継続	・運動に親しみ，進んで体力づくりに取り組む態度を育む。	・「主運動につながる運動メニュー」を各単元の進度に応じてとり入れた授業づくりを行う。 ・毎週水曜日に「外で遊ぼうデー」を実施する。	・「運動やスポーツをすることが好き」80%以上	□「運動やスポーツをすることが好き」82.2% ・毎週水曜日に「外で遊ぼうデー」を実施し、児童の外遊びに対する意欲が高まった。	3	3	・体育の授業の中で、技能を高めるだけでなく、主運動につながる運動メニューを通して、運動することの楽しさや達成感を感じられるような授業を行う。	□「運動やスポーツをすることが好き」88.0% ◎9月の暑さ、外遊びに関するトラブル等の影響で、1学期よりも肯定的回答が低くなった。 ◎体を動かすことの心地よさを感じるような取り組みが必要である。	3	3	3	・全身運動につながる動き等を系統化して共有する。 ・ゲーム性を持たせた体つくりの運動を取り入れる。
1	教職員が自身の力量向上に向けて，やりがいと充実感を持って働こうとする職場環境を作る。	★	見直し	・児童が自ら考える教育活動に向けて自己研鑽に努める。 ・教材研究の時間確保に向けて働き方改革を推進する。	・保幼小連携，小中連携を基にした教材研究，単元開発を行う。 ・行事，活動の目的を再考して精選する。 ・適切な予算執行により，環境整備を行う。	・「仕事に意義ややりがいを感じている」85%以上 ・時間外在校時間月45時間以内の職員100%	□「仕事に意義ややりがいを感じている」97.0% □時間外在校時間月45%以内の職員97.2% ・保幼小連携で学び、実践したことを夏季休業中に交流した。 ・効率的に業務遂行できるよう校内の環境整備を行った。	3	3	・各学年、分掌で課題と目的を明確にするとともに、取組を見直し、PDCAサイクルに基づいて検証する。 ・学年主任会を位置づけ、職場環境や時間確保について定期的に話し合う。	□「仕事に意義ややりがいを感じている」86.2% □時間外在校時間月45%以内の職員100% ◎勤務時間を意識した働き方が浸透してきた。また、教育内容も目標達成を意識した内容となるよう見直しを進めている。	3	3	3	・より目標を意識した活動になるよう、内容を精査したうえで、一貫性ある教育課程を編成する。 ・教職員が自己の成長を実感できるよう、体制や方法を見直し、研修を充実させる。
1	保護者・地位から信頼される学校づくりを行う。		見直し	・総合的な学習や生活科などで，地域を学んだり地域の人々と関わったりする学習をより充実させる。	・地域や市内を教材化し，探究的な展開になるよう単元づくりを行う。 ・情報発信，丁寧な保護者連携を行う。	・「地域の人や課題等に児童が直接触れる機会をつくっている」80%以上 ・「地域のことを学んだり，地域の方と一緒に活動したりすることが楽しい」90%以上	□「地域の人や課題等に児童が直接触れる機会をつくっている」30.0% □「地域のことを学んだり，地域の方と一緒に活動したりすることが楽しい」42.4% ・生活科・総合的な学習の時間を中心に課題発見（導入）を意識した単元づくりの研修を行った。	2	3	・保護者・地域の方に児童自ら学びを発信したり自らの課題の解決に向けて探究したりする活動を位置付ける。	□「地域の人や課題等に児童が直接触れる機会をつくっている」94.7% □「地域のことを学んだり，地域の方と一緒に活動したりすることが楽しい」81.7% ◎地域の教材化を視野に入れた単元づくりが不十分である。	3	3	3	・地域との連携の仕方や連携先などを明確にし、総合的な学習の時間、生活科では、地域素材を教材化した単元を作る。

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。